

2008 新春特別対談

つまり港湾も、高速の舞鶴西インターと10分で繋がる。これは当市にとって大きな振興に結びつくものと確信いたします。他市でそれだけ短時間で繋がっているところは新潟以外に日本海側ではないと聞いている。これを起爆剤にしたまちづくりをしていかないと、今の人口減少問題が解決しないと思っていますね。

人づくりの視点から見ると、現在、舞鶴の人口は減少傾向をたどっています。加佐町を合併した時には10万人を超えたんですが、以後約47年間9万人台であったものが、この4月に残念ながら9万人を切るかもしれないという心配があります。毎年人口の出入りはあるものの、これ以上の人口減少を食い止めるために、そうならないように万全の政策をしっかりと行うことが肝要であります。

これからの舞鶴で人づくりを進めていくには、人の数を抜きにしては考えられません。海上自衛隊の基地があることにより、大きな原動力となっています。うれしいことに今年3月、舞鶴航空基地の館山からの分遣隊が舞鶴航空隊に新編され、170名の隊員が増えます。家族も含めると相当数の人口が増えます。やはり、私たちが人口の下げ止まりを他都市から学ばなければならない点は、いわゆる、交流人口、移動人口、観光人口と言ってもいいかもしれませんが、市外から人を受け入れ、そこから智恵と情報を学んでいくというまことにしていかない限りは、この舞鶴力は、出てこないということを、実は今思っているところでございます。

司会

今市長から「舞鶴力の再生」のお話を聞かれて、会頭のご感想をお聞かせください。

**舞鶴の資源を十分に
生かした観光を**

上西会頭

私が思うに舞鶴は非常に文化意識が高い土地柄だと思います。文化の高い都市というのは「まちとしての

格」が上がるんですよ。例えば京都と奈良は他の大都市と比べ物にならない魅力があります。そういう文化の力というのは、地域を活性化の中で非常に大きなものを持っている。だからそれを大事にしないといけない、ということが1つあります。それから舞鶴は転勤で来られる方が非常に多いですが、これは、ものすごい財産なんです。全国各地を見てきた人には、舞鶴は何と景色のいい所、という第一印象を持っていただけますが、残念ながら定年になってから舞鶴に住みたいという人があまり出てこない。その理由は、教育の問題があると思うんですね。教育水準が高くなると、単身赴任でなく転勤で子供を連れて来てもらえる。ところが、舞鶴はそういう状況にないのです。

観光についても、一過性のものですから。まあお金を落としてもらえますからね。観光にも力を入れます。舞鶴ぐらい観光資源の多いところはないよと言われるんですが、それを十分生かしきっていない。最近の観光は、ニーズが多様化・複雑化してきているんですね。むかしは風光明媚なところを見に行くことが常識でした。ところが今は癒しを求める観光へと変わってきて、田舎の静かなところを散策したり、一緒に芋掘りをしたりというようになってきているわけですね。それに対応した観光施策をとっていかないと、舞鶴の持っている観光資源を十分に生かしきれないのではと考えています。



杉山の棚田での稲刈り作業

齋藤市長

いつも言っているんですけど、実

は本州の政令指定都市の中で港がないのは京都市だけなんです。私たちの京都舞鶴港は京都市のための港であると言っても過言ではありません。外国フェリー航路が実現すれば、これから中国・大連、韓国からもたくさん旅行生がやってきます。舞鶴に上陸すれば、京都市へも大阪、神戸へも高速道路で1時間以内に行ける。日本観光をするための、すばらしい港になるわけです。



湾内で行われたヨットレース

上西会頭

これからの若狭湾でのマリレジャーについてですが、先日、海事関係者の方と話した時に、マリレジャーをもっと増やしたらどうですかと言われました。私が、ヨットが湾内にたくさん航行することによって、航路の弊害が生じるなどの心配はありませんかとお尋ねすると、何もありませんとの返事でありました。

波が静かで干満の差が少ないから船の揚げ降ろしには便利であり、マリレジャーには舞鶴湾、若狭湾のエリアは最適なゾーンであると教えて頂きました。

齋藤市長

それには港湾計画の改定が思いいます。今、京都府がプレジャーボートの係留を許可していませんので、貿易港、漁港、もしくはマリレジャーの拠点港として位置付けて、しっかりと京都府に指導してもらう必要があると思います。

司会

それでは、舞鶴商工会議所に望むことをお聞かせ下さい。